



将来の都市構造

東近江市の都市構造の視点から、土地利用の現状と自然環境等を勘案し、地域を3つのゾーンに分け、その中に2つのエリアを設定して、それぞれの地域特性を明らかにし、整備の基本方針を示します。

(1) 自然うるおいゾーン

本市の大半を占める鈴鹿山系の森林は、豊かな水を育み、緑のダムとして土砂災害や洪水から市民の生命・財産を守るとともに、地球温暖化防止にも寄与するなどの公益的機能を有しており、多くの人々に恵みとるおいを与えています。

この地域では、保健休養機能やレクリエーション・観光、教育の場としての交流機能の向上を図るとともに、森林の保全・整備に努め、本市の貴重な財産として次代に引き継いでいきます。

また、内湖などの湖辺域のヨシ原や樹林地は、琵琶湖と一体となった景観を形づくる一方、琵琶湖や河川に生息する生物の生育地となっています。さらに、観光・レクリエーションなど、人々にうるおいを与える水辺空間としての機能も有しており、これらの調和を図りながら、多様な生態系を育む湖辺域の自然環境の保全に努めます。

(2) 田園やすらぎゾーン

鈴鹿山系に源を発する愛知川が市域の中央を流れ、佐久良川・日野川とともに、その流域に、緑豊かな美しい田園風景を形成しています。また、地域内には、河辺林・平地林などの里山が点在するなど、豊かな自然に恵まれています。

この地域では、こうした里山の保全、再生や活用にも努めるとともに、県下有数の農業生産を支える優良農地の保全、確保に努めます。また、農地、農村集落の果たす多面的機能の維持増進を図り、美しい自然と調和した住環境の整備に努めます。

さらに、就労の場の確保と地域経済の活性化を図るため、周辺の景観や環境に配慮しながら、計画的な工業用地の確保に努めます。

(3) 市街地にぎわいゾーン

国道421号が東西に走り、近江鉄道や名神高速道路、幹線道路などが交差するこの地域は、市内の交通の要衝に位置しています。その中では、商業、工業のほか、住宅地や公共機関など多様な機能が集積しており、本市の都市機能の中核を担っています。

この地域では、都市基盤の整備、居住環境の改善をはじめ、商業・交流・サービス機能や、文化、行政サービスなど、各種専門的機能の強化を図り、総合的な都市機能の拠点としてふさわしい市街地の形成とにぎわいの創出に努めます。

(4) 交流創造エリア

このエリアでは、本市の西の玄関口としてJR能登川駅のターミナル機能を発揮できるよう、市内東部地域から能登川駅へのアクセス道路及び周辺道路などの整備を推進します。

また、広域の都市を結ぶJR駅を活かした交流や商業などの機能の創出に努めます。

(5) 歴史文化創造エリア

このエリアは、先人の築いてきた数多くの伝統・文化や歴史的な建造物・まち並み等の歴史文化遺産を多く残しています。これらの歴史文化遺産の周辺景観を含めた保全を図るとともに、地域資源を活かした観光交流などへの積極的な活用にも努めます。



シンボリックな施策

東近江市のめざすべき将来像を実現するため、市民との協働によって重点的に推進する施策を2つのシンボルプロジェクトに分け、横断的に取り組みます。

1 安全・安心の地域社会を築く「ひだまりプロジェクト」

安全・安心な地域社会を構築するため、豊かな森の中で、生命をあたたくつつみ、育むことをイメージし、「ひだまりプロジェクト」として推進します。

今日、自然災害や環境汚染、犯罪、疾病や食生活をめぐる問題など、様々な社会不安が私たちの暮らしを取り巻いています。

「安全・安心」が、時代のキーワードとなっている今日、私たちは、安全・安心な地域社会を育て、そして、次世代の人々にとっても本市が住み続けたいまちとなるよう、取り組みを進めなければなりません。

このため、災害に強く事故や犯罪のないまちづくりに努めるとともに、健康づくりや地域医療、食生活など身近な暮らしにおける安全・安心の確保を図ります。また、次代を担う子どもたちに安全・安心な東近江市を引き継いでいくため、子育て支援や教育環境の充実など、子どもたちの未来に向けた安全・安心の確保に取り組みます。さらに、地域の課題を地域で解決し、子どもから高齢者までを地域で見守り、支え合うことで、住み慣れた地域で安心して暮らせる社会づくりを推進します。

- ◇防災・防犯対策の充実
- ◇身近な暮らしにおける安全・安心の確保
- ◇子どもたちの未来に向けた安全・安心の確保
- ◇高齢者や障害者が安心して暮らせる地域社会づくり

2 心豊かな文化都市をめざす「こだまプロジェクト」

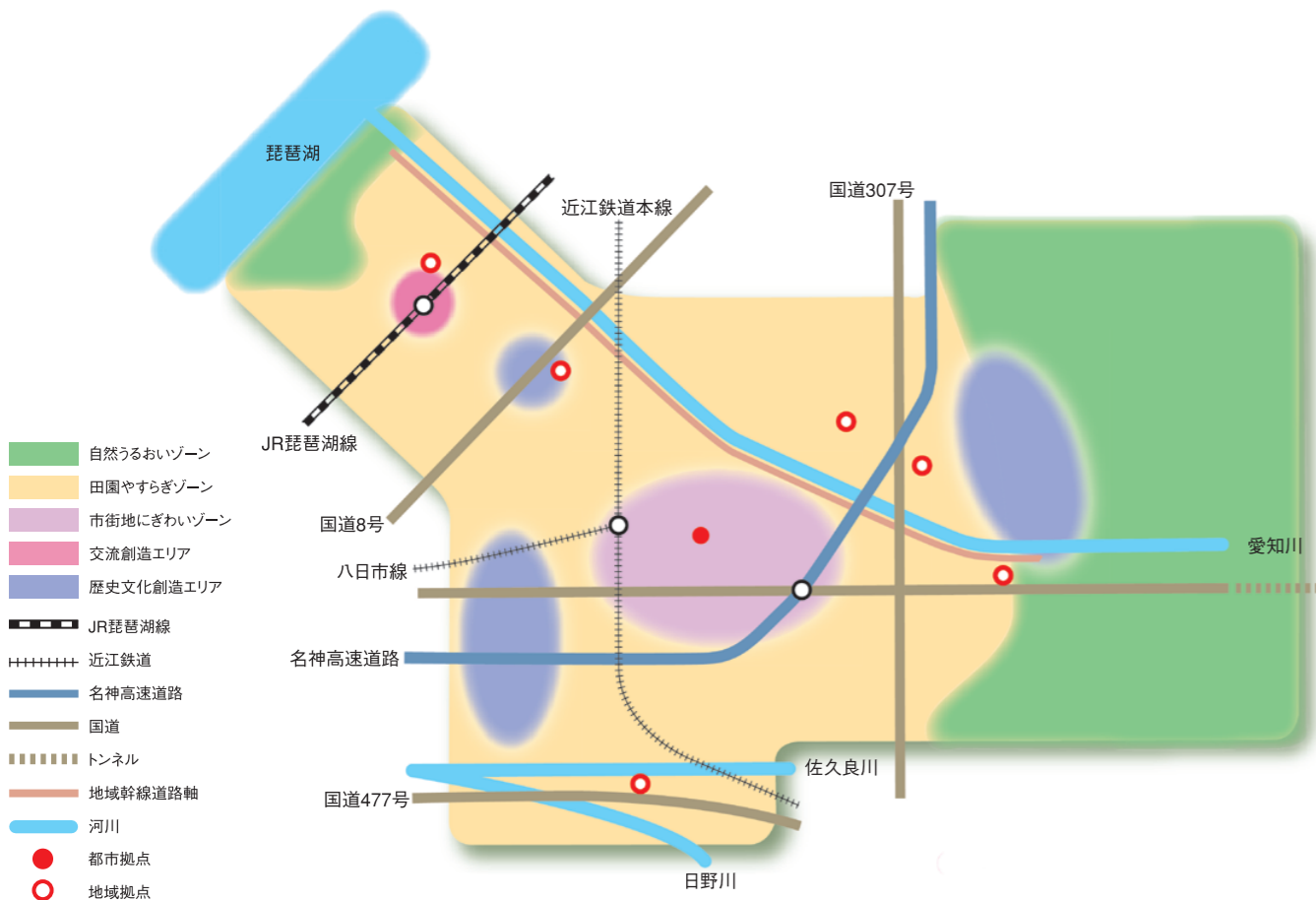
心豊かな文化都市をめざすため、心やすらぐ森の中で様々な樹木と生命のふれあいをイメージし、「こだま(木魂)プロジェクト」として推進します。

本市は、恵まれた自然環境の中で育まれてきた地域固有の多様な歴史文化を有するとともに、市民の文化活動への関心も高く、多彩で活発な地域活動や生涯学習活動が展開されています。

このような地域資源を活かしながら市民の一体感の醸成を図るため、全市を新しい東近江文化を創造するキャンパスと位置づけ、芸術文化の振興はもとより、美しく快適で誇りが持てる地域空間の創出や市のアイデンティティー形成など、「文化」を視点に、心豊かな市民生活につながるまちづくりを展開します。

また、本市は多くの地域文化や観光資源を有するとともに、高校、大学や多くの企業が立地しています。このような地域資源の連携や、高度情報通信基盤などの活用により、産・学・地(地域)のネットワークを形成し、一体的な交流のある文化都市をめざします。

- ◇文化のまちづくり
- ◇文化の基盤整備
- ◇文化の拠点形成
- ◇文化の経済・産業育成
- ◇協働型の自治文化の構築



基本構想推進にあたって

市民とともに進めるまちづくり

市民と行政が情報の共有化を図り、知恵と力を合わせて、それぞれの役割を果たす「市民と行政の協働」によるまちづくりを進めます。

そのため、広報紙やホームページ、ケーブルテレビなどの活用による積極的な情報公開に努め、一層の市民参加を進めるとともに、市民一人ひとりが地域を考え、主体的にまちづくりに参加できる仕組みづくりに取り組みます。

効率的・効果的な行政経営の推進

職員の削減など合併による効率化を更に推進する一方、専門的能力の強化と地方分権時代にふさわしい職員の資質の向上を図ります。

また、財政の中期展望をたて、近隣市町との広域的な連携の再構築を図るとともに、成果を重視する行政評価システムを導入するなど、行政を経営する視点から効率的で質の高い行政運営を進めます。

さらに、電子自治体の推進により、行政サービスの迅速化に努めるとともに、積極的な情報公開により、透明性の高い開かれた行政の推進に努めます。